

「古い車の話」

こたろう

古い車について書いてほしい、と依頼がありましたので書かせて頂きます。車に興味の無い方には何ともつまらないと思いますが勘弁して下さい。

今から20年近く前になりますが、私が少年時代から憧れていた1971年式のフェラーリ ディーノ 246 GTという車を買いました。この年式のフェラーリは12気筒エンジンのみで、排気量2,400ccと小さく、わずか190馬力のV6エンジンのディーノにはフェラーリのエンブレムが付けられることはありませんでした。フェラーリ創業者が若くして白血病でこの世を去った息子ディーノの名前をその小さなフェラーリにつけたとも言われています。



私が手に入れた時点で、すでに30年も前の車のため、初めて走らせた時は現代の車とは別物で、耕運機か何かにも乗っているような感じがしたことを今でも覚えています。

キャブレター付エンジンだったので、セルを回せばエンジンが一発始動とはいかず、キーをオンにしてからアクセルを5回ほど踏んでガソリンを送り込んでからセルを回すという何とも面倒な車です。

パーキングに寄って出発する時に車の周りに人が集まっていることが多く、最初のころはエンジンがなかなか掛からず恥ずかしい思いをしたこともありました。

エアコンはもちろん無し、三角窓から風を入れても雨の日にはフロントガラスがあっという間に曇ってしまいます。特に夏の日是最悪で、フロントにあるラジエーターからの熱が車内に入り込み、運転席は常に蒸し風呂状態で乗れたものではありません。汗を拭くのとフロントガラスを拭くのが忙しく、いつの間にかどっちに使ったタオルかわからなくなってしまうくらいです。ほとんどの人は一度横に乗ると二度と乗りたいとは言われません。この時代の車のオーナーは、苦しい思いをし



ながらも、それを外からは気づかれない様に涼しい顔をして運転していると思います。

ギアも走り出しは2速に入りづらいため1速から3速にシフトし、しばらくして2速を使うようにしています。街中の低速では何とも乗りづらいディーノもエンジンを5,000回転以上回しての高速走行は別もので、気持ちの良い走りになります。

車重も1,000kgそこそこ軽いため、高速コーナーの進入速度もかなりの優れものです。2000年以降のV8エンジン400馬力以上のフェラーリは、5,000回転を超えるとF1マシンの様なかん高い金属音と共に後ろから蹴飛ばされた様な暴力的な加速をしてしまい、サーキットに持ち込まない限りアクセルをベタ踏みできる場所はありませんが、ディーノにはそれは全くありません。

現代の車だとトヨタ86と同等の加速力で、高回転はディーノが少し上回るくらいでしょうか。

今までのトラブルとしてはサーキット走行中にあまりにも良く回るエンジンのため、回し過ぎてしまいバルブが溶けてしまった事がありました。この時はエンジンを下ろしバラしてもらい、再度、組み上げてもらいました。古い車のため造りもシンプルで、部品さえ探せば修理はそれほど難しいものではないらしいです。しかし修理費用は直せる店も限られるので、見積もり等は無く、ある程度お任せコースになってしまいます。その後は大きなトラブルもありません。古い車のため細かい点を直したらキリが無いので、2年に1度の車検整備に出す程度だけにしています。



近頃はさすがにパワステ無しの車に乗ることが辛い歳になり、車庫の奥に眠ったままです。

世界中で電気自動車へと向かっている時代に何故か旧車の価格が値上がりしているらしく、何度となく売ってほしいと言われましたが、いつ見ても飽きのこないデザインのせいなのか、この車だけは手放す気になれず、いつの間にか20年が過ぎてしまいました。

